

2012 そうじゃ 吉備路マラソン



備中国分寺の五重塔前を走るランナー。ほぼ途切れることなくハーフマラソンのランナーが駆け抜けた



選手宣誓をするフルマラソンに出場した高橋直人さん(岩手県宮古市)

1万5223人のエントリーのあったそうじゃ吉備路マラソンが2月26日、総社市スポーツセンター周辺を発着点に開催され、過去最多の1万4409人のランナーが早春の吉備路を駆け抜けました。歴史ロマンあふれるコースを舞台にしたこの大会は、中・四国地方で最大、フルマラソンを行う大会としては全国10位の規模のマラソン大会に成長しました。

1万4409人が

吉備路を走る

>>お礼

そうじゃ吉備路マラソンの開催にあたり、準備や運営、沿道警備、給水、駐車場などのボランティア、沿道からの応援、物的な支援など、大会のスムーズな運営や盛り上げにご協力いただき、ありがとうございました。また、交通規制では何かとご迷惑をお掛けしました。ご協力ありがとうございました。

始めています。皆さんの支援に感謝し、走れる喜びを感じながら、全力を尽くして走ります」と誓いました。

大会テーマソング「Walk in the life」を歌うゴーストノートの3人はスタート前、大会会場でテーマソングを熱唱。走りでは、沿道の注目を集めました。また、招待選手で天満屋女子陸上競技部の浦田佳小里さんと釘尾実来さんもスターター役や参加者といっしょに走るなど、大会を盛り上げてくれました。

そうじゃ吉備路マラソンは、フルマラソン、ハーフマラソン、5 km、3 km、900 mと2 kmのファミリーマラソンの4種目2イベントで開催。全国各地と県内全市町村から1万5223人がエントリーしました。

競技はハーフマラソンから順次スタート。色鮮やかなウェアに身を包んだランナーが、勢いよくコースに駆けていきました。沿道には多くの人が立ち、広報そうじゃの付録の小旗などを振って応援。「がんばって」と盛んな声援を受けたランナーは、歴史ロマンあふれるコースを堪能しながら疾走していました。

岩手県宮古市から出場の高橋直人さんが開会式で選手宣誓。「今、復興が進み

中・四国最取大